

日本板硝子株式会社

ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書

2025年9月30日

# 当社概要

- 日本板硝子株式会社は東京都港区に本社を置き、建築用ガラス事業、自動車用ガラス事業、高機能ガラス事業（クリエイティブ・テクノロジー事業）の3事業をグローバルに展開しています
- 世界最大級のガラスメーカーとして、日本をはじめ、欧州、北米、南米、アジアに主要製造拠点を擁し、世界100か国以上で製品を販売しています

## 当社概要

社名	日本板硝子株式会社
所在地	東京都港区
設立	1918年11月
資本金	116,892百万円
事業内容	建築用ガラス事業 自動車用ガラス事業 高機能ガラス事業（クリエイティブ・テクノロジー事業）
売上高	840,401百万円（2025年3月期 連結）
社員数	25,406名（2025年3月期 連結）
グループ	NSG Holding (Europe) Ltd. NSG UK Enterprises Ltd. Pilkington Group Ltd. 他

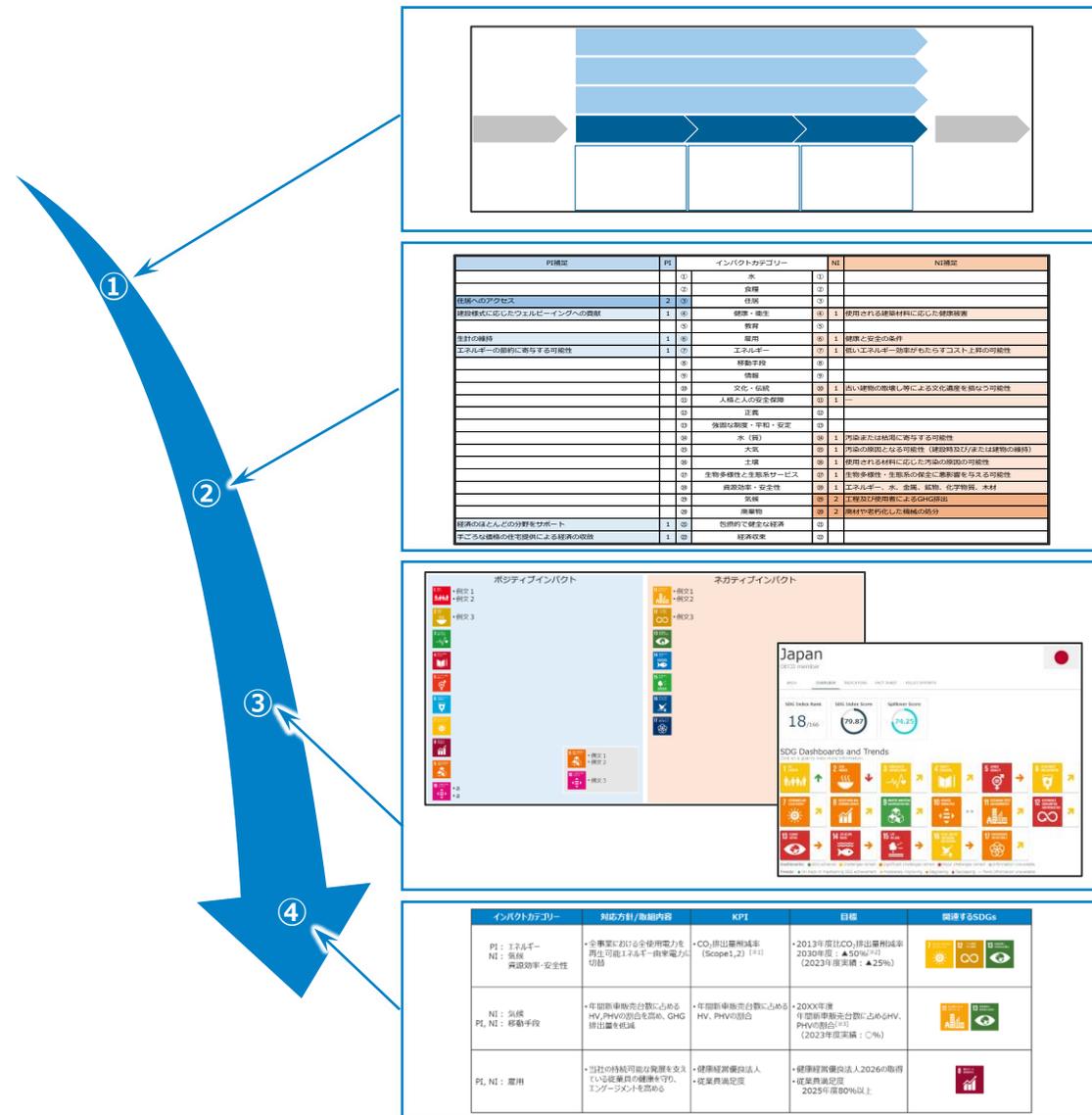
**NSG**  
GROUP



# インパクト分析フロー

- 下記のフローで当社グループのインパクト（環境・社会・経済に与える影響）を分析いたしました

工程	内容
① バリューチェーン分析	当該事業が経済的価値を創出するに至るプロセス（製品・サービスの構想、製造、提供、消費等）を特定します。
② インパクトマッピング	国際標準産業分類（ISIC）を用いて、業種別の一般的に想定されるポジティブ／ネガティブインパクトを確認します。
③ インパクトの特定	上記①②及びヒアリング結果等から当該事業のインパクトを特定の上、SDGs等社会的な要請との整合を確認します。
④ KPI・目標の設定	ポジティブインパクトが増大する、あるいはネガティブインパクトが抑制されるようなKPIと目標を設定します。



# バリューチェーン分析（当社グループ事業：ガラス製造業（建築用、自動車用、高機能））

- 公表資料ならびに当社へのインタビューから、当社グループの事業分野であるガラス製造業（建築用、自動車用、高機能）をバリューチェーン\*分析の対象としました
- 当該事業における原料となる珪砂等を生産する採石業を川上として、また当該事業の売上のうち大部分を占める建築用ガラスならびに自動車用ガラスの販売先（建築用ガラス：建設業・太陽光発電事業、自動車用ガラス：自動車製造業）を川下として整理しています

\*当社グループおよび川上・川下の事業活動が付加価値を生み出す一連の流れ



※Business Development（新製品および事業開発の強化を図り）  
 Decarbonization（社会の脱炭素化への貢献を目指す）  
 Digital Transformation（デジタルをフル活用した付加価値の高いオペレーションを構築して）  
 Diverse Talent（フェーズシフトをもたらす真に多様で包括的なチームを実現する）

# インパクトマッピング (川上：採石業)

- ・ 特定した川上の事業分野について、国際標準産業分類（ISIC）における産業分類に紐づけました
- ・ その上で、国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）のマッピングシートを用い、以下産業分類の一般的なインパクトを特定しました

## 川上：採石業

⇒ ISIC：0899 他に分類されないその他の鉱業及び採石業

PI補足	PI	インパクトカテゴリー	NI	NI補足
		① 水	① 2	飲料水の不足及び/または汚染に寄与する可能性
		② 食糧	②	
		③ 住居	③	
		④ 健康・衛生	④ 1	汚染に関連した健康被害
		⑤ 教育	⑤	
生計の維持	1	⑥ 雇用	⑥ 1	収入が低く不規則/不健康または不公正な労働条件
		⑦ エネルギー	⑦	
		⑧ 移動手段	⑧	
		⑨ 情報	⑨	
		⑩ 文化・伝統	⑩	
		⑪ 人格と人の安全保障	⑪ 2	採掘ビジネスに関連した紛争
		⑫ 正義	⑫	
		⑬ 強固な制度・平和・安定	⑬	
		⑭ 水（質）	⑭ 2	汚染の一因となる可能性
		⑮ 大気	⑮	
		⑯ 土壌	⑯ 2	汚染の一因となる可能性
		⑰ 生物多様性と生態系サービス	⑰ 2	陸上の生態系や生物種を混乱させる可能性
		⑱ 資源効率・安全性	⑱ 2	水、エネルギー、土地
		⑲ 気候	⑲ 1	GHG排出
		⑳ 廃棄物	⑳ 1	抽出工程と老朽化した機械から出る廃棄物
製造業、建設業等の様々なサプライチェーンに不可欠	1	㉑ 包摂的で健全な経済	㉑	
		㉒ 経済収束	㉒	

(凡例) PI：ポジティブインパクト、NI：ネガティブインパクト、2：影響大、1：影響あり、空：影響なし

# インパクトマッピング (当社グループ事業：ガラス製造業 (建築用、自動車用、高機能))

- ・ 特定した当社グループの事業分野について、国際標準産業分類 (ISIC) における産業分類に紐づけました
- ・ その上で、国連環境計画・金融イニシアティブ (UNEP FI) のマッピングシートを用い、以下産業分類の一般的なインパクトを特定しました

## 当社グループ事業：ガラス製造業 (建築用、自動車用、高機能)

⇒ ISIC : 2310 ガラス及びガラス製品製造業

PI補足	PI	インパクトカテゴリー		NI	NI補足
		①	水	①	
		②	食糧	②	
住居への貢献	1	③	住居	③	
		④	健康・衛生	④	
		⑤	教育	⑤	
生計の維持	1	⑥	雇用	⑥	1 事故
		⑦	エネルギー	⑦	
		⑧	移動手段	⑧	
		⑨	情報	⑨	
		⑩	文化・伝統	⑩	
		⑪	人格と人の安全保障	⑪	
		⑫	正義	⑫	
		⑬	強固な制度・平和・安定	⑬	
		⑭	水 (質)	⑭	2 汚染の一因となる可能性
		⑮	大気	⑮	1 汚染の一因となる可能性
		⑯	土壌	⑯	2 土壌汚染
		⑰	生物多様性と生態系サービス	⑰	
		⑱	資源効率・安全性	⑱	1 エネルギー、水、砂
		⑲	気候	⑲	1 GHG排出
		⑳	廃棄物	⑳	1 製造過程ならびに設備の老朽に伴う廃棄物
健全な経済の一部である製造業	1	㉑	包摂的で健全な経済	㉑	
		㉒	経済収束	㉒	

(凡例) PI : ポジティブインパクト、NI : ネガティブインパクト、2 : 影響大、1 : 影響あり、空 : 影響なし

# インパクトマッピング (川下①：建設業)

- ・ 特定した川下の事業分野について、国際標準産業分類（ISIC）における産業分類に紐づけました
- ・ その上で、国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）のマッピングシートを用い、以下産業分類の一般的なインパクトを特定しました

## 川下①：建設業

⇒ ISIC：4100 建築工事業

PI補足	PI	インパクトカテゴリー		NI	NI補足
		①	水	①	
		②	食糧	②	
住居へのアクセス	2	③	住居	③	
建設様式に応じたウェルビーイングへの貢献	1	④	健康・衛生	④	1 使用される建築材料に応じた健康被害
		⑤	教育	⑤	
生計の維持	1	⑥	雇用	⑥	1 健康と安全の条件
エネルギーの節約に寄与する可能性	1	⑦	エネルギー	⑦	1 低いエネルギー効率がもたらすコスト上昇の可能性
		⑧	移動手段	⑧	
		⑨	情報	⑨	
		⑩	文化・伝統	⑩	1 古い建物の取壊し等による文化遺産を損なう可能性
		⑪	人格と人の安全保障	⑪	1 -
		⑫	正義	⑫	
		⑬	強固な制度・平和・安定	⑬	
		⑭	水（質）	⑭	1 汚染または枯渇に寄与する可能性
		⑮	大気	⑮	1 汚染の原因となる可能性（建設時/建物の維持）
		⑯	土壌	⑯	1 使用される材料に応じた汚染の原因の可能性
		⑰	生物多様性と生態系サービス	⑰	1 生物多様性・生態系の保全に悪影響を与える可能性
		⑱	資源効率・安全性	⑱	1 エネルギー、水、金属、鉱物、化学物質、木材
		⑲	気候	⑲	2 工程及び使用者によるGHG排出
		⑳	廃棄物	⑳	2 廃材や老朽化した機械の処分
経済のほとんどの分野をサポート	1	㉑	包摂的で健全な経済	㉑	
手ごろな価格の住宅提供による経済の収斂	1	㉒	経済収束	㉒	

(凡例) PI：ポジティブインパクト、NI：ネガティブインパクト、2：影響大、1：影響あり、空：影響なし

# インパクトマッピング (川下②：太陽光発電事業)

- ・ 特定した川下の事業分野について、国際標準産業分類（ISIC）における産業分類に紐づけました
- ・ その上で、国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）のマッピングシートを用い、以下産業分類の一般的なインパクトを特定しました

## 川下②：太陽光発電事業

⇒ ISIC：3512 太陽光発電

PI補足	PI	インパクトカテゴリー		NI	NI補足
		①	水	①	
		②	食糧	②	
		③	住居	③	
		④	健康・衛生	④	
		⑤	教育	⑤	
		⑥	雇用	⑥	
エネルギーへのアクセス	2	⑦	エネルギー	⑦	
		⑧	移動手段	⑧	
		⑨	情報	⑨	
		⑩	文化・伝統	⑩	
		⑪	人格と人の安全保障	⑪	
		⑫	正義	⑫	
		⑬	強固な制度・平和・安定	⑬	
		⑭	水（質）	⑭	
大気汚染の軽減に貢献	2	⑮	大気	⑮	
		⑯	土壌	⑯	
		⑰	生物多様性と生態系サービス	⑰	
		⑱	資源効率・安全性	⑱	1 発電所を建てるための原料
排出量削減に貢献	2	⑲	気候	⑲	
		⑳	廃棄物	⑳	
		㉑	包摂的で健全な経済	㉑	
生活水準を向上させ、経済発展に不可欠	2	㉒	経済収束	㉒	

(凡例) PI：ポジティブインパクト、NI：ネガティブインパクト、2：影響大、1：影響あり、空：影響なし

# インパクトマッピング (川下③：自動車製造業)

- ・ 特定した川下の事業分野について、国際標準産業分類（ISIC）における産業分類に紐づけました
- ・ その上で、国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）のマッピングシートを用い、以下産業分類の一般的なインパクトを特定しました

## 川下③：自動車製造業

### ⇒ ISIC：2910 自動車製造業

PI補足	PI	インパクトカテゴリー	NI	NI補足
		① 水	① 2	水の大量消費
		② 食糧	②	
		③ 住居	③	
		④ 健康・衛生	④ 2	大気汚染の主な原因の一つ
		⑤ 教育	⑤	
生計の維持	1	⑥ 雇用	⑥ 1	健康と安全の条件
		⑦ エネルギー	⑦	
移動手段へのアクセス	2	⑧ 移動手段	⑧ 1	悪影響の少ない他の移動手段の利用減少
		⑨ 情報	⑨	
		⑩ 文化・伝統	⑩	
		⑪ 人格と人の安全保障	⑪	
		⑫ 正義	⑫	
		⑬ 強固な制度・平和・安定	⑬	
		⑭ 水（質）	⑭ 1	汚染の一因となる可能性
		⑮ 大気	⑮ 1	汚染の一因となる可能性
		⑯ 土壌	⑯ 1	汚染の一因となる可能性
		⑰ 生物多様性と生態系サービス	⑰	
		⑱ 資源効率・安全性	⑱ 2	エネルギー、水、金属、鉱物、化学品・化学製品
		⑲ 気候	⑲ 2	GHG排出
		⑳ 廃棄物	⑳ 1	工程、老朽化した機械、最終消費者からの廃棄物
健全な経済の一部である製造業	1	㉑ 包摂的で健全な経済	㉑	
人々の移動が経済の収束に貢献	1	㉒ 経済収束	㉒	

(凡例) PI：ポジティブインパクト、NI：ネガティブインパクト、2：影響大、1：影響あり、空：影響なし

# インパクトマッピング (一覧)

インパクトカテゴリー		川上		当社グループ		川下		川下		川下	
		採石業		ガラス製造業		建設業		太陽光発電事業		自動車製造業	
		PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI
<b>社会</b> 入手可能性、アクセス可能性、 手ごろさ、品質（一連の固有の 特徴がニーズを満たす程度）	①	水		2							2
	②	食糧									
	③	住居			1		2				
	④	健康・衛生		1			1	1			2
	⑤	教育									
	⑥	雇用	1	1	1	1	1	1		1	1
	⑦	エネルギー					1	1	2		
	⑧	移動手段								2	1
	⑨	情報									
	⑩	文化・伝統						1			
	⑪	人格と人の安全保障		2				1			
	⑫	正義									
	⑬	強固な制度・平和・安定									
<b>環境</b> 質（物理的・化学的構成・性質） の有効利用	⑭	水（質）		2		2		1			1
	⑮	大気				1		1	2		1
	⑯	土壌		2		2		1			1
	⑰	生物多様性と生態系サービス		2				1			
	⑱	資源効率・安全性		2		1		1		1	2
	⑲	気候		1		1		2	2		2
	⑳	廃棄物		1		1		2			1
<b>経済</b> 人と社会のための経済的価値創造	㉑	包摂的で健全な経済	1		1		1			1	
	㉒	経済収束					1		2		1

(凡例) PI：ポジティブインパクト、NI：ネガティブインパクト、2：影響大、1：影響あり、空：影響なし

# SDGsとの関連性 (川上：採石業)

- 環境省のインパクトファイナンスの基本的考え方を参考に、インパクトがあると判定されたカテゴリーについて、SDGsとの関連性を下図の通り整理しました

## 川上：採石業

⇒ ISIC：0899 他に分類されないその他の鉱業及び採石業

### ポジティブインパクト



- 製造業、建設業等の様々なサプライチェーンに不可欠



- 生計の維持
- 製造業、建設業等の様々なサプライチェーンに不可欠

### ネガティブインパクト



- 汚染に関連した健康被害



- 飲料水の不足及び/または汚染に寄与する可能性
- 汚染の一因となる可能性



- 水、エネルギー、土地



- 収入が低く不規則/不健康または不公正な労働条件



- 採掘ビジネスに関連した紛争



- 水、エネルギー、土地
- 抽出工程と老朽化した機械から出る廃棄物



- GHG排出



- 陸上の生態系や生物種を混乱させる可能性



- 汚染の一因となる可能性
- 陸上の生態系や生物種を混乱させる可能性

# SDGsとの関連性（当社グループ事業：ガラス製造業（建築用、自動車用、高機能））

- 環境省のインパクトファイナンスの基本的考え方を参考に、インパクトがあると判定されたカテゴリーについて、SDGsとの関連性を下図の通り整理しました

当社グループ事業：ガラス製造業（建築用、自動車用、高機能）

⇒ ISIC：2310 ガラス及びガラス製品製造業

## ポジティブインパクト



• 健全な経済の一部である製造業



• 生計の維持  
• 健全な経済の一部である製造業



• 住居への貢献

## ネガティブインパクト



• 汚染の一因となる可能性



• 汚染の一因となる可能性



• エネルギー、水、砂



• 事故



• エネルギー、水、砂  
• 製造過程ならびに設備の老朽に伴う廃棄物



• GHG排出



• 土壌汚染

# SDGsとの関連性 (川下①：建設業)

- 環境省のインパクトファイナンスの基本的考え方を参考に、インパクトがあると判定されたカテゴリーについて、SDGsとの関連性を下図の通り整理しました

## 川下①：建設業

⇒ ISIC：4100 建築工事業

### ポジティブインパクト

-  1 貧困をなくそう  
• 手ごろな価格の住宅提供による経済の収斂
-  3 すべての人に健康と福祉を  
• 建設様式に応じたウェルビーイングへの貢献
-  5 ジンダー平等を促進しよう  
• 経済のほとんどの分野をサポート
-  7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに  
• エネルギーの節約に寄与する可能性
-  8 働きがいも経済成長も  
• 生計の維持  
• 経済のほとんどの分野をサポート
-  11 住み続けられるまちづくりを  
• 住居へのアクセス
-  17 パートナシップで目標を達成しよう  
• 手ごろな価格の住宅提供による経済の収斂

### ネガティブインパクト

-  3 すべての人に健康と福祉を  
• 使用される建築材料に応じた健康被害  
• 汚染の原因となる可能性（建設時/建物の維持）
-  6 安全な水とトイレを世界中に  
• 汚染または枯渇に寄与する可能性
-  7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに  
• 低いエネルギー効率がもたらすコスト上昇の可能性  
• エネルギー、水、金属、鉱物、化学物質、木材
-  8 働きがいも経済成長も  
• 健康と安全の条件
-  10 人や国の不平等をなくそう  
• —
-  11 住み続けられるまちづくりを  
• 古い建物の取壊し等による文化遺産を損なう可能性
-  12 つくる責任 つかう責任  
• エネルギー、水、金属、鉱物、化学物質、木材  
• 廃材や老朽化した機械の処分
-  13 気候変動に具体的な対策を  
• 工程及び使用者によるGHG排出
-  14 海の豊かさを守ろう  
• 生物多様性・生態系の保全に悪影響を与える可能性
-  15 陸の豊かさも守ろう  
• 使用される材料に応じた汚染の原因の可能性  
• 生物多様性・生態系の保全に悪影響を与える可能性

# SDGsとの関連性 (川下②：太陽光発電事業)

- 環境省のインパクトファイナンスの基本的考え方を参考に、インパクトがあると判定されたカテゴリーについて、SDGsとの関連性を下図の通り整理しました

## 川下②：太陽光発電事業

⇒ ISIC：3512 太陽光発電

### ポジティブインパクト



- 生活水準を向上させ、経済発展に不可欠



- 大気汚染の軽減に貢献



- エネルギーへのアクセス



- 排出量削減に貢献



- 生活水準を向上させ、経済発展に不可欠

### ネガティブインパクト



- 発電所を建てるための原料



- 発電所を建てるための原料

# SDGsとの関連性 (川下③：自動車製造業)

- 環境省のインパクトファイナンスの基本的考え方を参考に、インパクトがあると判定されたカテゴリーについて、SDGsとの関連性を下図の通り整理しました

## 川下③：自動車製造業

⇒ ISIC：2910 自動車製造業

### ポジティブインパクト



- 人々の移動が経済の収束に貢献



- 健全な経済の一部である製造業



- 生計の維持
- 健全な経済の一部である製造業



- 移動手段へのアクセス



- 人々の移動が経済の収束に貢献

### ネガティブインパクト



- 大気汚染の主な原因の一つ
- 汚染の一因となる可能性



- 水の大量消費
- 汚染の一因となる可能性



- エネルギー、水、金属、鉱物、化学品・化学製品



- 健康と安全の条件



- 悪影響の少ない他の移動手段の利用減少



- エネルギー、水、金属、鉱物、化学品・化学製品
- 工程、老朽化した機械、最終消費者からの廃棄物



- GHG排出



- 汚染の一因となる可能性

# KPI・目標の設定について

- 以上のような分析結果を基に、インパクトマッピングにより特定されたインパクトについて、当社グループが定めるマテリアリティならびにサステナビリティ基本方針等との整合性を踏まえ、KPI・目標を以下のように選択し、設定しました
- 目標に対する実績の進捗、新たな目標値の設定については年次モニタリングで確認します

インパクトカテゴリー	対応方針/取組内容	KPI	目標	関連するSDGs
NI: 資源効率・安全性 気候	<ul style="list-style-type: none"> <li>•「サステナブル・サプライチェーン」プロジェクトの発足</li> <li>•事業全体における再生可能電力消費の割合を増やす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•CO<sub>2</sub>排出量 (Scope1+2及びScope3)</li> <li>•事業活動で消費する全電力における再生可能エネルギー由来の電力使用割合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•2027年まで単位生産量あたり排出量を前年比▲3% (2024年3月期実績：前年比▲5.5%)</li> <li>2030年までに2018年比▲30%※1 (2024年3月期実績：2018年対比▲15.9%)</li> <li>•2030年までに85% (2024年3月期実績：35%)</li> </ul>	 
PI: エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>•温室効果ガス排出量削減に向けた研究・技術開発への投資</li> <li>•社会の脱炭素化を支える新製品の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•環境貢献製品・技術の提供を通じた、脱炭素社会の実現への寄与</li> </ul>	<p>定性目標として年次モニタリング時に確認</p>	
PI, NI: 雇用	<ul style="list-style-type: none"> <li>•人材の獲得</li> <li>•ダイバーシティ、イクイティ&amp;インクルージョン</li> <li>•HRデジタル</li> <li>•従業員に対する提供価値</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Your Voice調査のNPS設問における肯定的回答比率※2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•2027年3月期 80% (2024年3月期実績：77%)</li> </ul>	

(凡例) PI：ポジティブインパクトの拡大、NI：ネガティブインパクトの抑制

※1 2030年までの年次ごとの目標は、あおぞら銀行が確認しています

※2 従業員意識調査 (Your Voice) における「NSG グループを働きがいのある職場として推薦する (NPS : Net Promoting Score)」と回答した比率



### ご留意いただきたい事項

- 本評価書の内容は、あおぞら銀行がその裁量により信頼できると判断した現時点で入手可能な公表資料や借入人へのヒアリングを通じて収集した情報に基づいて、現時点での状況の評価し作成されたものですが、あおぞら銀行は、当該情報の正確性、適時性、網羅性、完全性及び特定目的への適合性その他一切の事項について表明または保証するものではなく、当該情報を使用した結果について一切の責任を負いません。
- あおぞら銀行は、法律、会計、税務等の専門的資格を求められる内容に関しアドバイスを行う立場にありません。これらの専門的内容等につきましては、独立したそれぞれの専門家にご相談願います。
- 本評価書に係る一切の権利はあおぞら銀行が保有しています。本評価書の全部または一部をあおぞら銀行に無断で複製、翻案、改変等することは禁止されています。